

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)						
H010A103		看護学概説(Outline of Nursing and Nursing Practice)				生体分野						
*大分を創る科目												
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	履・限	担当教員						
必修	2	1	福祉健康科学部	前期		氏名 安藤敬子 E-mail takako-ando@olta-u.ac.jp 内線						
授業概要	本科目では、保健・医療・福祉の連携のなかで協同する看護専門職がどのような機能や役割があるのかを理解するため、看護とは何か、看護の目的や変遷、看護における対象理解、看護の基盤となる考え方を理解する。また、看護技術の実践を通して看護について理解を深める。さらに、保健・医療・福祉の専門職としての自己の専門性、専門分野の役割や機能について考える機会とする。											
具体的な到達目標	UP等の対応(別表参照)						1 2 3 4 5 6 7 8 9 10					
目標1	看護の目的、機能と役割について説明できる						○					
目標2	看護の基盤となる知識を基に看護実践について説明できる						○					
目標3	保健・医療・福祉の連携において、自己の専門分野の役割や機能について言語化できる						○					
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	コースオリエンテーション											
2	看護とは (講義)											
3	看護の役割と機能 (講義)											
4	看護の捉える健康とは (講義)											
5	看護の対象理解 (講義)											
6	看護の基盤となる考え方 (講義)											
7	看護活動の実践 (講義)											
8	看護における倫理 (講義)											
9	看護の継続性と連携 (講義)											
10	多職種連携について考える① (グループワーク)											
11	多職種連携について考える② (全体ディスカッション)											
12	看護実践の方法① (触れるケア) (講義・演習)											
13	看護実践の方法② (フィジカルイグザミネーション) (講義・演習)											
14	看護実践の方法③ (感染予防) (講義・演習)											
15	まとめ											
ラーニング	A:知識の定着・確認	○	Zoomを用いた講義・グループワーク・全体ディスカッションを実施する				工夫その他の 動画等の視聴覚教材を活用することで、具体的な理解を深める					
ニ	B:意見の表現・交換	○	予定である。授業終了後、学習目標達成に関する振り返りをMoodle上に									
ン	C:応用志向	○	レポート提出する。最終レポートでは、それらを通して自身の学びを省									
グ	D:知識の活用・創造	○	察する機会にする。									
時間外学習	準備	グループにおける事前検討、課題レポートの作成 (8h)										
の内容と時間	事後	授業内容を踏まえた最終レポートの作成 (4h)										
の目安	学習											
教科書	ミルトン・メイヤロフ：ケアの本質 ―生きることの意味― ゆみる山版 1987年出版											
参考書	講義内に配布する。											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	課題レポート	30%	○	○								
	最終レポート	40%	○	○	○							
	グループワーク	20%	○	○	○							
	各回の振り返りレポート	10%	○	○	○							
注意事項	資料配布、レポート提出、授業に関する連絡には、Moodleを活用する。また、連絡等については、DEEP mailでの配信もあるので、適宜、各自が自覚して情報の確認をすること。											
備考	【地域創生教育科目】											
リンク	URL											

担当教員の 実務経験の有無	○
教員の業務 経験	看護師・保健師として医療施設の看護、地域看護（座業）の実務経験があり、それらの経験を活かしてより実践的な内容を伝える。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)										
H010A104		人体の構造と機能及び疾病(Anatomy and pathophysiology)					生体分野										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	履・限	担当教員											
必修	2	1	福祉健康科学部	前期		氏名 紀瑞成、片岡晶恵、兒玉雅明 E-mail kodm@oita-u.ac.jp 内線 6113											
授業の概要 疾患を学ぶためには、まず正常を理解する必要がある。すなわち正常解剖、生理機能の理解が必須である。これらを理解した上で、病態生理を学ぶ。病態生理とは、「なぜこの病気が起こっているのか」「この疾患の原因はどういったメカニズムでおこっているのか」である。病態生理を理解すれば、疾患にともなう合併症や症状の説明が容易となるし、忘れることもない。ぜひこの授業では、正常解剖と病態生理を理解してほしい。																	
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10									
目標1	人体の形態と構造について、説明できる。						○	○	○	○							
目標2	人体が生命を維持する機序を説明できる。						○	○	○	○							
目標3	代表的な健康障害について、病態生理を説明できる。						○	○	○	○							
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1 体の所属性を見てみよう(細胞・組織・器官・器官系)(紀)																	
2 胸腔内臓器の形態学的特徴(紀)																	
3 腹腔内臓器の形態学的特徴(紀)																	
4 骨盤内臓器の形態学的特徴(紀)																	
5 脳と脊髄の形態学的特徴(紀)																	
6 機能解剖と疾病①(片岡)																	
7 炎症その他の病態について(兒玉)																	
8 機能解剖と疾病②(片岡)																	
9 腫瘍学①(兒玉)																	
10 機能解剖と疾病③(片岡)																	
11 腫瘍学②(兒玉)																	
12 機能解剖と疾病④(片岡)																	
13 身近な感染症学①(兒玉)																	
14 機能解剖と疾病⑤(片岡)																	
15 身近な感染症学②(兒玉)																	
ラーニング	A:知識の定着・確認 ○ 症例供覧時の討論 B:意見の表現・交換 ○ C:応用志向 ○ D:知識の活用・創造 ○					工大	その他の	配布プリント									
時間外学習の内容と時間の目安	準備 予習 (15h) 事後 復習 (30h) 学習																
教科書	絵で見る脳と神経 しくみと障害のメカニズム(第4版) 医学書院																
参考書	標準整形外科第14版 医学書院 新臨床内科学【デスク刊】第10版ISBN978-4-260-03806-5【ポケット刊】第10版 医学書院 2020年 ISBN978-4-260-03807-2、内科学(第11版)2017年 ISBN978-4-254-32271-2 朝倉書店、「病気が見える」シリーズ 2016-2021年、MEDICMEDIA																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	期末テスト(筆記試験)	100%	○	○	○												
注意事項	講義に使うスライドや資料は実際の症例を用いている場合がある。不用意に写真にとったり複写をして、配布したり、ネットにあげるなどが決してないようにして下さい。																
備考	テキストは必ず購入すること。このテキストは1年後期「リハビリテーション医学」でも使用する。理学療法コース学生は2年次の「臨床医学・Ⅱ」でも使用する。																
リンク	URL																

担当教員の 実務経験の有無	○
教員の実務 経験	医師として診療（片岡、兎玉）。解剖教員として人体解剖実習（紀）。
実務経験を いかした教 育内容	実臨床で経験した症例を提示する。また解剖教員としての人体解剖学、組織学、発生学の実習、講義に携わっており、実践に基づいた人体構造の知識を講義する。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)					
H010A108		リハビリテーション医学(Rehabilitation Medicine)										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
必修	2	1年	福祉健康科学部	後期		氏名 片岡昌志、児玉雅明、非常勤講師 E-mail mkataoka@oita-u.ac.jp, kodu@oita-u.ac.jp 内線 7457(片岡), 6113(児玉)						
講義は運動器疾患、内部障害、脳血管疾患にわけて講義する。それぞれの分野においてリハビリテーション(リハ)医学の対象となりやすい疾患の病態生理、治療法および患者へのリハ的アプローチの方法を理解する。さらに対象者が家庭復帰・社会復帰を目的とするにあたり、その支援のあり方、社会的資源の活用について学習する。												
授業の概要												
具体的な到達目標												
							DP等の対応(別表参照)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10				
目標1 疾病の病態生理を説明できる。								○ ○ ○ ○				
目標2 治療法を説明できる。								○ ○ ○ ○				
目標3 機能障がいとこれに基づく能力障がいや社会的不利を説明できる。								○ ○ ○ ○				
目標4 障がいに對する医学的リハビリテーションについて説明できる。								○ ○ ○ ○				
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1 運動器の解剖とバイオメカニクス												
2 上肢の疾患												
3 下肢の疾患												
4 脊髄疾患・脊髄損傷												
5 切断・義肢装具												
6 血液検査所見から見た病態												
7 生活習慣病												
8 メタボリックシンドローム												
9 心疾患(虚血性心疾患など)												
10 腹部疾患												
11 脳血管疾患総論①												
12 脳血管疾患総論②												
13 脳血管疾患各論①												
14 脳血管疾患各論②												
15 脳血管疾患各論③												
ラーニング	A:知識の定着・確認	○ 症例検討を行います。課題に対してレポート提出を課します。					エッセイ その他の	スライドを用いて臨床症例を供覧します				
	B:意見の表明・交換	○										
	C:応用志向	○										
	D:知識の活用・創造	○										
時間外学習の内容と時間の目安	準備 学修											
	事後 学修	事後学修(30h)										
教科書	絵で見る脳と神経 しくみと障害のメカニズム(第4版)馬場元毅 著 医学書院 2019年											
参考書	標準整形外科学(第14版)井橋栄二 他編集 医学書院 2020年 新臨床内科学【デスク判】第10版ISBN978-4-260-03806-5【ポケット判】第10版 医学書院2020年 ISBN978-4-260-03807-2、内科学(第11版)ISBN978-4-264-32271-2 朝倉書店 2017年、「病気が見える」シリーズ、MEDICMEDIA 2016-20121年											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	試験(筆記試験)	100%	○	○	○	○						
注意事項	レポートは必ず提出してください。											
備考	【地域創生教育科目】											
リンク												
	URL											

担当教員の 実務経験の 有無	○
教員の实務 経験	3名とも臨床経験あり 現在も臨床に携わっている
実務経験を いかした教 育内容	臨床で直面する問題をあげて、解決するにはどうすればよいかを考える講義をおこなう

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)																																																																																																																										
H010A205		健康科学(Health Science)																																																																																																																														
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員																																																																																																																										
必修	2	2年	福祉健康科学部	前学期		氏名 徳丸治、朝井政治、金子聡(非常勤)、新地浩一(非常勤) E-mail ostokuma@oita-u.ac.jp, na-aai@oita-u.ac.jp 内線 7872、7551																																																																																																																										
本講では健康維持、疾病予防に係る幅広い分野を学ぶ。 前半は、環境を整え、傷病を予防し、健康の増進を図る事を目的とする公衆衛生学の基礎を概説する。特別講義として、学外の専門家を招いて国際公衆衛生の最先端の活動についても教授する。 後半は、高齢者の身体・精神機能の特徴、高齢者の機能評価、具体的な健康維持と介護予防の取り組みについての講義を行う。																																																																																																																																
具体的な到達目標 DP等の対応(別表参照) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標1 公衆衛生学を学ぶ目的が理解できる</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標2 主要な保健統計を説明できる</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標3 主要な疫学指標について説明できる</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標4 我が国の公衆衛生上の諸問題(母子保健、学校保健、環境保健、産業保健)について説明できる</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標5 国際保健の現状と課題について説明できる</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標6 加齢によって生じる身体・精神機能の変化について説明できる</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標7 高齢者の身体・精神機能の評価と介入について説明できる</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標8</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標9</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標10</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>									1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	目標1 公衆衛生学を学ぶ目的が理解できる	○										目標2 主要な保健統計を説明できる		○									目標3 主要な疫学指標について説明できる			○								目標4 我が国の公衆衛生上の諸問題(母子保健、学校保健、環境保健、産業保健)について説明できる				○	○						目標5 国際保健の現状と課題について説明できる						○					目標6 加齢によって生じる身体・精神機能の変化について説明できる			○								目標7 高齢者の身体・精神機能の評価と介入について説明できる			○								目標8											目標9											目標10										
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10																																																																																																																						
目標1 公衆衛生学を学ぶ目的が理解できる	○																																																																																																																															
目標2 主要な保健統計を説明できる		○																																																																																																																														
目標3 主要な疫学指標について説明できる			○																																																																																																																													
目標4 我が国の公衆衛生上の諸問題(母子保健、学校保健、環境保健、産業保健)について説明できる				○	○																																																																																																																											
目標5 国際保健の現状と課題について説明できる						○																																																																																																																										
目標6 加齢によって生じる身体・精神機能の変化について説明できる			○																																																																																																																													
目標7 高齢者の身体・精神機能の評価と介入について説明できる			○																																																																																																																													
目標8																																																																																																																																
目標9																																																																																																																																
目標10																																																																																																																																
授業の内容 1 公衆衛生学概論(徳丸) 2 保健統計(徳丸) 3 疫学(徳丸) 4 母子保健・学校保健(徳丸) 5 環境保健・産業保健(徳丸) 6 特別講義: 国際感染症予防(長崎大学熱帯医学研究所 金子教授) 7 社会保障制度、介護保険制度(朝井) 8 加齢に伴う身体・精神機能の変化(朝井) 9 フレイル、サルコペニアと栄養(朝井) 10 高齢者の身体機能の評価(朝井) 11 高齢者の精神機能の評価(朝井) 12 高齢者に対するリハビリテーション介入1: 急性期、回復期 13 高齢者に対するリハビリテーション介入2: 維持期、生活期(介護予防も含む) 14 特別講義: 国際保健-国際緊急援助隊の経験と佐賀大学での取り組み(佐賀大学医学部 新地教授) 15 事例検討、グループディスカッション																																																																																																																																
ラーニング	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造		☐ 実際の事例や介護予防事業をテーマとした学生間の討議を通じて、建設的な思考過程を身につける。 ☐		工夫	その他の																																																																																																																										
時間外学習の内容と時間の目安	準備 学修	講義の予習(15回の講義×1時間)																																																																																																																														
	事後 学修	講義の復習(15回の講義×1時間)																																																																																																																														
教科書	鈴木庄亮監修 シンプル公衆衛生学2021 南江堂(東京, 2021) 2,400円(税別)																																																																																																																															
参考書	国民衛生の動向 2020/2021 公正労働統計協会(東京, 2020) 2,695円(税込)																																																																																																																															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10																																																																																																																				
	試験	90%	○	○	○	○	○	○	○																																																																																																																							
	課題レポート、学修成果物	10%						○	○																																																																																																																							
注意事項																																																																																																																																
備考																																																																																																																																
リンク	URL																																																																																																																															

担当教員の 実務経験の 有無	○
教員の実務 経験	医師、理学療法士
実務経験を いかした教 育内容	実際の事例や介護予防事業を基に講義を進める

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)									
H010A202		社会保障論Ⅰ(Social Security Ⅰ)					社会分野									
*大分を創る科目																
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
必修	2	2	福	前期		氏名 松本由美 E-mail matsumoto-yumi@oita-u.ac.jp 内線 8097										
授業の概要 この授業は、国民が健やかで安心できる生活を送るために欠くことのできない社会保障に関する知識と理解を深めることを目的とする。社会保障の全体像を把握するために、まず、その概念、体系と仕組み、費用と財源および歴史について学習した上で、日本の社会保障を構成する各制度の要点を学ぶ。さらに、社会保障政策の課題と今後のあり方について考える。																
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)									
目標1	社会保障の全体像を理解し、その目的や機能、現状について説明することができる。					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標2	社会保障を構成する各制度の基本的な仕組みと諸給付について理解し、説明することができる。					○										
目標3	少子高齢化の進展等がもたらす社会保障の課題について、自分の考えを述べるることができる。							○								
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1 社会保障論についてのガイダンス																
2 社会保障の概念(対象及びその理念を含む)																
3 社会保障制度の体系と仕組み(社会保険と社会扶助の関係を含む)																
4 社会保障の費用と財源																
5 社会保障の歴史																
6 福祉国家の発展																
7 現代社会における社会保障の現状(少子高齢化)																
8 現代社会における社会保障の現状(家族・雇用)																
9 年金保険																
10 医療保険																
11 介護保険																
12 労働保険																
13 公的扶助と社会福祉																
14 社会保障の今日的課題と改革方策(年金・医療)																
15 社会保障の今日的課題と改革方策(介護・労働・福祉)																
ラーニング	A:知識の定着・確認 ○課題を設定した授業内レポートを作成してもらう。					工夫 その他の	学習を補足するため、資料や新聞記事等を活用する。									
	B:意見の表現・交換 ○															
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造															
時間外学習の内容と時間の目安	準備 学習	参考書等に基づき、必要に応じて予習を行う(15h)。														
	事後 学習	既回、講義内容の復習を行い、知識や理解を定着させておく(30h)。														
教科書	教科書は指定しない。 授業中に配布するプリントを使用する。															
参考書	城新・社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座『7 社会保障』中央法規、2021年。 土田武史編著『社会保障論』成文堂、2015年。															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	学期末試験	70%	○	○	○											
	授業への参加の積極度	30%			○											
注意事項																
備考	【地域創生教育科目】															
リンク	URL															

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)										
H010A203		保健医療サービス論(Health and Medical Social Work)					社会分野										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
必修	2	2	福祉健康科学部	前期		氏名 上白木悦子 E-mail kamishiraki@oita-u.ac.jp 内線 7540											
授業の概要 本講義では、保健・医療分野におけるソーシャルワークに必要な専門的知識（医療供給体制にかかる政策動向や課題、医療機関の種類等、医療ソーシャルワーカーの役割や歴史、多職種連携等）について理解をすることを目的とする。																	
具体的な到達目標																	
DP等の対応(別表参照)							1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	医療供給体制の概要（医療法改正や医療保険制度、診療報酬制度）を列挙し、医療供給体制の課題を説明することができる。						○										
目標2	医療機関の種類や役割について説明することができる。						○										
目標3	医療ソーシャルワーカーの役割や専門性について説明することができる。						○	○									
目標4	日本および欧米の医療ソーシャルワークの歴史について説明することができる。						○										
目標5	保健・医療サービスにおける専門職の役割および多職種連携や協働について説明することができる。						○	○									
目標6	医療供給体制の動向およびこれを取り巻く政策動向と医療ソーシャルワークについて説明することができる。						○	○	○								
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1 オリエンテーション																	
2 医療供給体制の基本的な課題を理解する																	
3 医療保険制度																	
4 国民医療費の概況																	
5 診療報酬制度																	
6 診療報酬制度																	
7 医療施設の概要																	
8 保健・医療サービスにおける専門職の役割—医療ソーシャルワーカー業務指針—																	
9 保健・医療サービスにおける専門職の役割—医療ソーシャルワーカー業務指針—																	
10 保健・医療サービスにおける専門職の役割—医療ソーシャルワーカーの倫理綱領—																	
11 医療ソーシャルワークの歴史																	
12 保健・医療サービスにおける専門職の役割—医師、看護師等、各医療従事者の役割および多職種連携—																	
13 保健・医療サービスにおける専門職の役割—医師、看護師等、各医療従事者の役割および多職種連携—																	
14 医療供給体制の動向と医療ソーシャルワーク																	
15 医療供給体制の動向と医療ソーシャルワーク																	
ラーニング	A:知識の定着・確認	○	時間外学修						工夫	その他							
	B:意見の表現・交換																
	C:応用志向																
	D:知識の活用・創造																
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	書籍をできる限り多く読み、柔軟で多角的な視野の涵養につとめてください。また、メディア等を通じて保健・医療をめぐる日本また世界の現状と課題に目を向けてみてください。(15h)															
	事後学修	関連書籍を精読し関心を広げ、またメディア等を通じて保健・医療をめぐる日本また世界の現状と課題に関心を寄せてください。(15h)															
教科書	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『保健医療と福祉』中央法規。																
参考書	1. 岩淵豊(2015)『日本の医療』中央法規。 2. 財団法人 厚生統計協会（2021）国民衛生の動向。																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	課題ごとのリアクションペーパーの内容により総合的に評価する。	40%	○	○	○	○	○	○									
	期末テスト	60%	○	○	○	○	○	○									
注意事項																	
備考																	
リンク	URL																

担当教員の 火務経験の 有無	○
教員の実務 経験	医療ソーシャルワーカー

ナンバリング						授業科目名(科目の英文名)								区分・【新主題】/(分野)						
H020S101						地域福祉論Ⅰ(Local Welfare Ⅱ)								社会分野						
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員													
選択(社会福祉実践コースは必修)		2	2	福祉健康科学部	前期		氏名 洪心琳 E-mail hong@toyo.jp 内線													
授業の内容																				
この授業のねらいは、地域福祉の構成要件や理念を理論的な基盤として、地域住民が抱える具体的な生活問題を予防・解決することを通して地域社会を変えていくための基礎的知識を得ることです。 地域福祉は、誰もが自分らしく、住み慣れた地域で安心して暮らし続けていけるような地域社会を、地域の力を結集してつくり出して行くものです。ただし、地域(住民)の問題解決のための資源とみなして専門職が外部から働きかけるようでは、地域福祉の基本的な要件を欠くことになります。本講義では、地域住民が抱える生活問題の現状を踏まえ、新たな質の地域社会を形成していく可能性を考えます。																				
具体的な到達目標 DP等の対応(別表参照)																				
目標1 地域住民の抱える生活問題やその背景・構造について分析し、課題を発見できる。																				
目標2 関連政策との動向と合わせて地域福祉の問題状況を分析できる。																				
目標3 多様な文化・価値観を尊重しつつ、生活問題の様々な姿を実証的に把握し、地域福祉のあり方と実践の条件について提案できる。																				
目標4																				
目標5																				
目標6																				
目標7																				
目標8																				
目標9																				
目標10																				
授業の内容																				
1 現代社会における社会福祉問題と地域福祉																				
2 地域福祉の発展過程① 地域福祉の源流																				
3 地域福祉の発展過程② 戦後の地域福祉の展開																				
4 地域福祉の発展過程③ 地域福祉の主流化																				
5 地域福祉の構成要件① 地域福祉の推進体制																				
6 地域福祉の構成要件② 関連公共施策の整備・開発と有機的連携																				
7 地域福祉の主体① 推進主体の性格																				
8 地域福祉の主体② 社会福祉協議会																				
9 地域福祉の主体③ 民生委員																				
10 地域福祉の主体④ 民間組織																				
11 地域福祉の対象① 社会的排除																				
12 地域福祉の対象② 社会的排除への対応																				
13 地域福祉の対象③ 社会的孤立																				
14 地域福祉の対象④ 社会的孤立への対応																				
15 地域福祉の今日的課題																				
ラーニングログ A:知識の定着・確認 B:意見の表明・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造																				
毎回リアクションペーパーに質問・感想を記入させ、Moodleにて回収する。必要に応じて次の講義でコメントする。																				
工夫その他の																				
実践事例の例示や分析を活用する。																				
時間外学習の内容と時間の目安																				
準備 配付資料や参考文献等の情報を必要に応じて予習する(8h)。																				
事後 配付資料や参考文献等を用いて復習する(4h)。																				
教科書 講義内容に即した教材をMoodleにて配付する。																				
参考書 講義内容に関連する図書を選定紹介する。																				
成績評価の方法及び評価割合																				
評価方法																				
期末試験																				
割合																				
目標1																				
目標2																				
目標3																				
目標4																				
目標5																				
目標6																				
目標7																				
目標8																				
目標9																				
目標10																				
注意事項																				
私語など傍聴の妨げとなるような行為は禁止する。																				
備考 オンラインでの開講となる。それにとりあう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。																				
リンク URL																				

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)						
H020S103		現代社会と福祉Ⅰ (Contemporary Society WelfareⅠ)				社会分野						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	履・原	担当教員						
全コース必修	2	1	福祉健康科学部	前期	氏名 三好 慎之							
					E-mail miyoshi-yoshiyuk@oita-u.ac.jp	内線 7888						
授業の目的は、社会福祉の実践や施策の形成過程を歴史的に概観し、福祉の理念を学ぶことにある。これらは、社会問題に対応するための社会的機能として展開されるとともに、社会の成熟と相まって発展してきた。一方、少子・高齢社会やグローバリズムの進展によって、社会構造が大きく変動していくなか、社会福祉実践や施策は、あらたな局面を迎えている。転換期を迎えた日本社会の実態をローカリズムとグローバリズムの視点でとらえ、社会福祉の潮流を検討することを本講義のもう一つの目的とする。												
具体的な到達目標												
目標1	社会福祉の実践理念や施策の形成過程を説明することができる。					1	2					
目標2	社会福祉の法・制度を学習し、基礎的知識を活用することができる。					3	4					
目標3	社会福祉の現状と問題ならびに課題について学習し、社会福祉の可能性を説明することができる。					5	6					
目標4						7	8					
目標5						9	10					
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	オリエンテーションー社会福祉を学ぶということー											
2	人口減少時代と社会福祉ー現代社会と人々の暮らしー											
3	社会福祉に関する基本的理解ー現代社会の生活問題と社会福祉の役割ー											
4	社会福祉における思想と理論											
5	日本社会における社会福祉のあゆみー戦前・戦中・戦後の福祉展開ー											
6	社会福祉に関連する法・制度の仕組みー社会福祉六法の成立過程ー											
7	イギリス・アメリカにおける社会福祉の歩み											
8	イギリス・アメリカ・スウェーデン・デンマークの福祉施策											
9	アメリカ健康社会への挑戦ーHealthy people planの展開ー											
10	日本における社会福祉の歩みー社会福祉基礎構造改革と社会福祉供給システムのパラダイム転換ー											
11	現代社会における社会福祉の権利擁護											
12	社会福祉の現代的課題1ー施設介護の実態ー											
13	社会福祉の現代的課題2ー福祉労働者政策と権利擁護ー											
14	社会福祉の現代的課題3ー地域福祉の推進と地域包括ケアシステムー											
15	まとめ											
ラーニング	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	○ ミニッツ・ペーパー					工夫 その他					
時間外学習の内容と時間の目安	準備学習 参考文献や辞典、配布資料から、用語の理解、法制度、歴史的背景を学修する。(15h) 事後学習 参考文献や配布資料などを通じて復習し、学修した内容を深める。(15h)											
教科書	指定しない。											
参考書	1. 三好 慎之 (2015) 『はじめての社会福祉論』 法律文化社 2. 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編 (2021) 『最新社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座4. 社会福祉の原理と政策』 中央法規											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
試験		60%	○	○								
レポート課題		40%	○	○	○							
注意事項	私語は厳格に禁じます。											
備考	開校開始前に社会福祉関連図書（上に1. 歴史2. 経済3. 哲学に関する書籍）を毎回5冊程度紹介する。											
リンク	URL											

担当教員の 実務経験の 有無	○
教員の実務 経験	何野 伸子（公認心理師，臨床心理士），岩野 卓（公認心理師，臨床心理士）
実務経験を いかした教 育内容	アセスメントや具体例など実践経験を活かした視点から教示する

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)						
H010A106		心理学概論(Introduction to Psychology)				心理分野						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	履・選	担当教員						
必修	2	1	福祉健康科学部	前期		氏名 河野 伸子/岩野 卓 E-mail n-kawano@oita-u.ac.jp/iwano-suguru@oita-u.ac.jp 内線 7612/6108						
授業の概要 心理学は、人間の行動の背後には「こころ」が存在すると仮定し、客観的な手法を用いて、行動と心理の関係について科学的な説明を試みるものである。この講義では、心理学の基本的な考え方や伝統的な研究知見について、主に福祉との関係が深い領域を中心に学ぶことをおらいとする。特に、日常的な人間の行動や生活、社会の特徴について、心理学的な観点から、分析・考察できるようになるための基本的な概念を解説する。その他、心理学の成り立ちなどについてもとりあげる。												
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)						
目標1	心理学の成り立ちおよび人の心の基本的な仕組みや働きについて説明できる。					1	2					
目標2	現代の人間的な諸問題を、心理学的な観点から考察し、意見を述べるができる。					3	4					
目標3						5	6					
目標4						7	8					
目標5						9	10					
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1 心理学の成り立ち												
2 福祉と心理学												
3 多職種連携・チーム支援												
4 心と身体・感情												
5 心の健康(ストレスと心の働き)												
6 人の個性と性格												
7 心理アセスメント												
8 心の病												
9 人の発達のみちすじ1												
10 人の発達のみちすじ2												
11 人の発達のみちすじ3												
12 家族関係の心理学												
13 集団と個人												
14 知性を探る1												
15 知性を探る2												
ラーニング	A:知識の定着・確認 ○授業終了時に、振り返りのライティングを行う。					工夫	その他の					
ラーニング	B:意見の表現・交換											
ラーニング	C:応用志向											
ラーニング	D:知識の活用・創造											
時間外学習	準備 授業中に提示する「次のテーマ」について考えておくこと(7h)											
時間外学習	事後 授業中に提示した参考文献や参考視聴覚教材を読んだり視聴したりすること(15h)											
教科書	大谷真弓・安立奈歩・河野伸子著「授業で使える心理学ワークブック 改訂版」北樹出版 2014年											
参考書	講義中に提示する。											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
提出課題		45%		○								
学期末試験		55%	○									
注意事項	なし											
備考	なし											
リンク	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)						
H020P301		ライフサイクルの心理学(発達心理学A)(Life-span Developmental Psychology)				心理分野						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	履・限	担当教員						
必修	2	1	福祉健康科学部	後期		氏名 河野 伸子 E-mail n-kawano@oita-u.ac.jp 内線 7812						
授業の概要 人間の一生における胎児期から老年期・死までの発達段階的な諸問題について、また発達と人生、世代間交流など人生の時間軸に関わる諸問題について、発達心理学的な観点から解説する。												
具体的な到達目標 DP等の対応(別表参照)												
目標1	人の一生の各発達段階における発達的特徴(認知機能、感情・社会性、対人関係の発達、発達課題と向き等)を説明できる	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標2	現代における諸問題に対して、人間の心の発達過程と関係性の視点から考察し、必要な援助や問題解決について提案できる	○	○									
目標3												
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1 ガイダンス												
2 生涯発達心理学とは												
3 乳児期												
4 乳児期の問題												
5 幼児期												
6 幼児期の問題												
7 児童期												
8 児童期の問題												
9 青年期												
10 青年期の問題												
11 成人期												
12 成人期の問題												
13 高齢期												
14 高齢期の問題												
15 発達教育、臨床的アプローチ												
ラーニング	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	○ ○ ○	教科書の事例を用いてグループディスカッションを行い、理解を深める。 授業の終わりに、振り返りのライティングを行う。				工夫 その他					
時間外学習	準備	授業中に提示する「次のテーマ」について考えてくること (7h)										
の内容と時間	事後	授業中に提示する参考文献や参考視聴覚教材を読んだり視聴したりすること (15h)										
の目安	学習											
教科書	渡辺弥生・榎本祥子「発達と臨床の心理学」ナカニシヤ出版 2012年											
参考書	講義中に適宜提示する。											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	学期末試験	55%	○	○								
	提出課題	45%		○								
注意事項	なし											
備考	なし											
リンク	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)										
H020P513		健康心理学(健康・医療心理学A)(Health Psychology)					心理分野										
*大分を創る科目																	
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	履・選	担当教員											
必修	2	1	福祉健康科学部	後期		氏名 岩野 卓											
						E-mail iwano-suguru@oita-u.ac.jp 内線 6108											
授業の概要	心身の健康は、人間が生活する上で重要な問題です。この講義では、身体的健康だけではなく、ストレスなどの精神的健康について理解することを目的とします。また、対人援助職として実用的な技能について紹介します。具体例として、ポジティブ心理学、ストレスマネジメント、認知行動療法、動機づけ面接などを紹介します。																
具体的な到達目標						OP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	生活習慣、健康問題、健康促進についての実態を説明できる。							○	○								
目標2	科学的な視点から健康習慣について理解できる。									○							
目標3	具体的な技能を試みることができる。							○		○	○						
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1	健康心理学とは何か																
2	ストレスと関連疾患																
3	ストレスマネジメント																
4	生理的メカニズムと災害時の対応																
5	生活習慣と生活習慣病																
6	睡眠衛生(不眠とその関連問題)																
7	嗜癖行動(薬物、お酒、ギャンブル、恋愛等)																
8	スティグマと社会的サポート																
9	ポジティブ心理学																
10	健康心理アセスメント																
11	介入技法①動機づけ面接																
12	介入技法②行動療法																
13	介入技法③認知療法																
14	様々な健康心理カウンセリング																
15	エビデンスに基づく取り組み																
ラーニング	A:知識の定着・確認	○	グループディスカッション、ロールプレイ、技法の実演と模倣、課題自己探索型のレポート、感想シートを利用した学生からの意見収集と教員からのフィードバック														
	B:意見の表現・交換	○															
	C:応用志向	○															
	D:知識の活用・創造	○															
時間外学習の内容と時間の目安	準備 学修	月1回のレポートを課すが課題の内容は自発的に創造しかつ論理的なものであることを求める(15h)。															
	事後 学修	講義資料の復習(15h)															
教科書	資料を配布します。																
参考書	藤和代・茂木俊彦・石川利江 2012 よくわかる健康心理学 ミネルヴァ書房 マーチン・セリグマン 2013 オプティミストはなぜ成功するのか【新装版】 パンローリング																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	レポート(3回)	15%	○	○	○												
	期末試験	85%	○	○													
注意事項	受講生の希望や理解を反映するため、講義内容に関する感想や意見を毎回の講義で提出して頂きます。																
備考	なし 【地域創生教育科目】																
リンク	URL																

担当教員の 実務経験の 有無	○
教員の实務 経験	臨床心理士として精神科病院、EAP、教育委員会（スクールカウンセラー）として勤務。公認心理師。
実務経験を いかした教 育内容	健康心理学に関する臨床場面の実際や事例を踏まえて説明する。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)										
H010A304		社会心理学(社会・集団・家族心理学B)(Social psychology)															
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	履・限	担当教員											
必修	2	2・3年	福祉健康科学部	後期		氏名・中里 直樹 E-mail nakazato-naoki@oita-u.ac.jp 内線 7530											
授業の概要	日常生活の事例を引き合いに出しながら、対人認知・対人魅力、リーダーシップ、援助行動、文化など、社会心理学の理論やモデルの考察を試み、社会的な問題の解決に必要な知識と技能を習得する。																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1 社会心理学の意義と研究法を理解し、説明できる。								○			○						
目標2 社会心理学の理論やモデルを、日常生活における自身の社会的行動と他者への支援活動に関係づけることができる。								○	○								
目標3 社会心理学の理論やモデルに基づき、社会的な問題の解決方法を提案できる。								○	○								
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1 社会心理学の定義および研究法																	
2 援助行動とソーシャル・サポート																	
3 社会的自己 (1): 自己認知と自尊心、自己意識																	
4 社会的自己 (2): 自尊心の維持・高揚のメカニズム、自己呈示																	
5 社会的態度 (1): 態度の形成と変容																	
6 社会的態度 (2): 説得的コミュニケーション																	
7 社会的認知 (1): 対人認知と原因帰属																	
8 社会的認知 (2): 推論・帰属の誤りとバイアス																	
9 対人魅力と対人関係 (1): 初期的関心																	
10 対人魅力と対人関係 (2): 対人関係・家族関係の発展・持続・危機																	
11 集団・組織 (1): 集団の特徴と機能、集団への同調																	
12 集団・組織 (2): リーダーシップの理論、服従と抵抗																	
13 集団・組織 (3): 集団間葛藤、リーダーシップの実態																	
14 文化・社会とWell-being (1): 個人主義・集団主義と文化的自己観																	
15 文化・社会とWell-being (2): 社会生態学的環境とWell-being																	
ラ ク ニ ン グ	A:知識の定着・確認		○ 毎回の授業でミニッツペーパーに取り組んでもらい、提出を求める。ミニッツペーパーに書かれた質問に対しては、次回の授業時に返答する。		エ 夫 そ の 他 の												
	B:意見の表現・交換		○ 適宜、グループ・ディスカッションも取り入れる。														
	C:応用志向																
	D:知識の活用・創造																
時間外学習の内容と時間の目安	準備	配布資料や参考文献等の情報を必要に応じて予習する (15h)															
学修	事後	授業で学習したことを配布資料等も用いて復習し、ミニッツペーパーを執筆する(15h)。15回分の授業内容の総合的理解及び考察に努め、社会心理学の理論及びその日常生活への適用について考察する(15h)。															
教科書	・教科書は指定しない。適宜、資料を配布する。																
参考書	・「新・ぐらしの社会心理学」 小川一夫編著 (1995) 北大路書房 ・「英語で学ぶ社会心理学」 大坪庸介、アダム・スミス著 (2017) 有斐閣ブックス ・Kassin, S., Fein, S., & Markus, H. R. (2020) Social Psychology (11th ed.). Wadsworth Publishing.																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	授業への積極的参加 (ライティング課題や質問など)	40%	○	○	○												
	期末試験	60%	○	○	○												
注意事項	令和2年度(2020年度)以降の入学生にとっては2年次科目。令和元年度(2019年度)以前の入学生にとっては3年次科目。																
備考	【地域創生教育科目】																
リンク	URL																

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)									
H020P501		臨床心理学概論(Introduction to Clinical Psychology)				心理分野									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	履・選	担当教員									
選択(心理学コースは必修)	2	2年	福祉健康科学部	前期		氏名 武内珠美 E-mail ttakeuti@olta-u.ac.jp 内線 7811									
授業の概要															
臨床心理学とは何か、その領域や領域、心理査定・理解から相談・支援までの流れ、倫理と関連法規、対象とするところの問題(情緒的・認知的)などについて、概説する。特に、現代社会における臨床心理学的課題についても言及する。中心的には、どのような人や問題や困りについて理解を深め、相談支援を展開していくのかについての基礎を学ぶ。															
具体的な到達目標															
DP等の対応(別表参照)															
目標1	臨床心理学とは何か。その領域や・領域、倫理、関連法規について学ぶ。														
目標2	心理学的な問題を抱えた人を心理査定・理解し、相談支援していく流れと、他職種との連携・協働の必要性を理解する。														
目標3	発達段階ごとに起こりやすい心理的問題と、関係なく起こる心理的問題について理解する。														
目標4	現代社会における臨床心理学的課題について理解する。														
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
授業の内容															
1 臨床心理学とは何か。機能と領域															
2 臨床心理学における、心理査定・理解から相談・支援の流れ。その過程での他職種との連携・協働															
3 その過程で生じる可能性のある問題。倫理と関連法規															
4 日本における臨床心理学の歴史と発展。現代日本社会における臨床心理学的な課題															
5 臨床心理学のアセスメントで考慮すべき視点。心理専門家が知っておくべき精神医学的な基礎知識															
6 主な精神医学的な問題を理解する(不安障害、身体症状と解離性障害など)。家族や関係者への支援															
7 ライフサイクル上発生する臨床心理学的問題I(乳幼児から児童期まで(その1))															
8 ライフサイクル上発生する臨床心理学的問題II(乳幼児から児童期まで(その2))															
9 ライフサイクル上発生する臨床心理学的問題III(思春期・青年期(その1))															
10 ライフサイクル上発生する臨床心理学的問題IV(思春期・青年期(その2))															
11 ライフサイクル上発生する臨床心理学的問題V(成人期(その1))															
12 ライフサイクル上発生する臨床心理学的問題VI(成人期(その2))															
13 ライフサイクル上発生する臨床心理学的問題VII(老年期)															
14 災害や事件などとストレス反応。そしてさまざまな喪失															
15 身体機能の喪失と心理的反応、そしてそれへの包括的支援(リハビリ)															
ラ イ フ サ イ ク ル 上 の 発 生 す る 臨 床 心 理 学 的 問 題 I I I I	A:知識の定着・確認 B:意見の表明・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造				○講義中にライティングを実施することによって、知識の定着・理解度を 確認していく。ライティングの中での質問にも、次の講義で答えていく など、交流を図っていく。また、必要に応じて、グループになり、ディ スカッションを行い、意見の表明と交換を行う。				工夫 その他の		公開講座で受講しておられる社会人を混ぜた形でグループによる 話し合いを行うことにより、大人の意見を聴く機会とする。 臨床心理学に関する最新の雑誌や専門書を、講義中に回してみ てもらうことによって、学生の興味関心を高める。				
時間外学習の内容と時間の目安															
準備学修 次回の講義予定について説明を行うので、テキストなどを読んでくること。															
事後学修 講義の中でわかりに行かなかったことや、初めて聞いた専門用語などについて、また強く興味関心を持った事情・テーマについて、自分で調べたり、本や論文を 読んでいくことをすすめる。															
教科書 よくわかる臨床心理学 改定新版 ミネルヴァ書房 下山ら編著															
参考書 講義の中で随時、紹介・指示する。															
成績評価の方法及び評価割合															
評価方法															
割合															
目標1															
目標2															
目標3															
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
毎回の講義のライティング															
最終レポート															

担当教員の 実務経験の 有無	○
教員の実務 経験	臨床心理士、公認心理師（武内珠美）
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無	○
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	臨床心理士、公認心理師（北吉直子）
実務経験を いかした教 育内容	担当教員と、1回担当していただく講師は、臨床心理士・公認心理師であることから、実践的な事例を交えた講義を実施することができます。